

学 長 式 辞

本日、東京医科歯科大学を卒業される276名の皆さん、卒業誠におめでとうございます。列席の役員、学部長をはじめとする教職員一同とともに心からお祝い申し上げます。

また、皆さんが本日の卒業式を迎えるまでの長い間、熱いご支援をいただいたご家族及び関係者の皆様方に、心より御礼申し上げます。

さて皆さんは、今やっと医療人としてのスタート・ラインに立つことが出来ました。これから各々進路に応じた研修等を経て、真の医療人として成長されていくことになります。

私たちは、皆さんに自ら問題を提起し、自らの力で解決していく自己問題提起、自己解決型の創造的人間を養成する教育を提供してきました。皆さんは問題を多角的に分析していく高い能力を身につけていると信じています。

是非とも、その高い能力を用いて、永く生涯にわたり、医療の現場あるいは教育、研究の場で、自分に相応しい生きがいを見い出して活躍されることを、私は勿論のこと、多くの方々が期待を持って注目しています。

本学は近代教育・学問発祥の地である昌平坂学問所の講堂などがあった場所に

あり、伝統的に知の拠点であります。

徳川綱吉が幕府直轄の学問所として昌平坂に設立したのが始まりで、孔子を祀る湯島聖堂は学問所の一部でありました。昌平坂の名は孔子の生まれた昌平郷から由来しております。この事実を示す門標がお茶の水門に掲げられております。この近代教育・学問発祥の由緒ある地にある東京医科歯科大学で学んだ皆さんは誇りを持って、東京そして世界に羽ばたくことを期待しております。

私が大学卒業後、医療人として行動していく上でのモットーのひとつに「積極思考で全力を尽くす」があります。自分の置かれている立場がどうであれ、不平、不満をのべるのではなく、己の信ずるところに従って、勤勉実直に全力を尽くしていけば道は拓かれていくという意味であります。世界からも模範的日本人としての特性であると言われているところでもあります。

しかしながら、近年、あれだけ勤勉さ、律儀さを誇っていた日本人の矜持を傷つけられる事件が多発してきています。科学研究分野では、データの盗用、改竄及び虚偽の実験結果をベースにした論文発表、不適切な研究費使用等、また製造分野においても、自動車・航空産業等をはじめ日本を代表する大企業における生産管理上の不正行為等により、質の高さを誇った日本技術の信頼度が揺らいできています。

成果至上主義による短期間で結果を出さなければならないという焦燥感、自

己顕示欲などが背景にあると思いますが、基本的に倫理観の欠如であると弁解の余地はないのではないのでしょうか。

皆さんも若いうちは当然のことではありますが、最初から指導的業務を任せられるものではなく、研究においても直ぐには素晴らしい成果が得られるものではありません。倦むことなく己の目標に向かって地道に全力で努力していくことが重要であります。診療においては、患者への説明不足、虚偽の実績提示、研究においては、データの改竄使用、他者の研究データの盗用等、結果を急いで求めるあまりに不正行為に手を染めることのないよう、倫理観を持って積極思考で全力を尽くして自分の目標を目指していただきたいと思います。

さて、皆さんが自らの夢の実現に向けて研鑽を積んでいくこれからの世界情勢に目を向けてみると、政治的にも経済的にも先行きが不透明な厳しい時代となってきました。

グローバリゼーションは大航海時代から始まっており、政治的、経済的側面が強く、アメリカを中心に世界の秩序が保たれていましたが、現在はその対局であるナショナリズム、ポピュリズムが台頭しております。

グローバリゼーションの旗振り役であったアメリカを初めドイツ、イタリア、イギリスなどのヨーロッパ諸国に移民問題、難民問題に端を発し、また、元々権威主義の中国、ロシアなどナショナリズム、ポピュリズム勢力の台頭があり、

将来が危惧されております。

また、グローバリゼーションの教訓として、社会的に負の結果を持たらしているのが、現在話題のCOVID-19いわゆるコロナウィルスのアウトブレイクです。当初、中国武漢に発した **coronavirus** が主としてツーリズムを通して世界中に **epidemic** から **pandemic** へと蔓延してきております。2002年には中国広東省を発するSARSが問題となりましたが、その時は、国内発生を阻止することが出来ました。いずれにしろ現在のように他国への移動が容易な時代は感染症が世界問題となる傾向にあります。特に経済的に発展した国民は世界中を観光できる時代です。豊かな国は新しい感染症を発生させない義務を負っており、各国の自覚が必要です。一方、インバウンドツーリズムに力を入れている国は新興感染症に対する万全な措置が必要です。

今回の本邦の対応は広い批判を浴びております。またこのような状況では、一時的な人事交流の停止もやむを得ないでしょう。

このような混沌している世界で、一方、今後も必然的にグローバル化が進む中において、私たちは本学の基本理念「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」および、その前文に示されています学問と教育の聖地、湯島・昌平坂に建つ本学は「知と癒しの匠を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献」を実践していかなければなりません。

医療分野における真のグローバル化に資するということは、単純に国際交流、国際協力、国際共同研究等を実施していただくだけではなく、異なる文化、価値観の世界のなかにあっても、各国の実情に応じた良質な医療を提供する体制作りと人材育成に貢献する必要があります。

私たちが担うべき医療の分野においては、近い将来劇的に変貌していくことが予想されるICT、ビッグデータ、AI、ロボテックス、3Dプリンターなどを活用した新しい診断・病態解明・治療法の開発し、それに伴う先進医療機器および創薬、即ちイノベーションの推進が必要となります。

さらには急激な高齢化社会に向けて健康寿命延伸のための先制医療、個別化医療の推進を生活習慣は勿論、地球規模の気候変動・災害・人為的環境の変化等の自然や社会の変化に対応した形で推進し、一方、普遍的な生命現象研究も進化させていかなければなりません。これらを実現するには、医療の世界でビッグデータ、AI、IoTやロボティクス等の先端医療技術を駆使できる先導的人材も育成していかなければなりません。

このように私達には次世代医療実施に向けての多くの課題が待ち受けています。

皆さんは医療分野のエキスパートとして、今掲げた多くの課題解決に向けて、私たちと共に切磋琢磨努力を続けて一つでも多くの成果を挙げて、世界に向け

て健康で活力のある長寿社会を提供しようではありませんか。

最後に、もう一つの私のモットーにしている言葉を皆さんに贈りたいと思います。それは「己を知れば邪心なし」であります。

江戸時代中期の思想家 石田梅岩（いしだ ばいがん）が「尽心知性」という言葉を残しています。人の心の中には「私案する心（作為する心）」という怪物がおり、その怪物は「素直で善なる心」の姿を覆い隠し、心を邪悪な危うきに導くとしています。よって人のあるべき道は「私案なしの本心」に従い生きていくべきであるという意味であります。私は自分の世間の見苦しい事案を見た体験から「己を知れば邪心なし」としています。今後の医療人として生きていかれる上で、己を知ること即ち自己アイデンティティは重要であると思います。

東京医科歯科大学は、今後も皆さんを将来にわたり見守り応援してまいります。皆さんも心正しくして本学を医療人としての診療活動、研究活動もしくは新たな教育の場として活用されることを期待するとともに東京医科歯科大学同窓会の一員として母校及び後輩学生への支援をお願いします。

本日は誠におめでとうございます。

二〇二〇年三月二十五日

東京医科歯科大学 学長 吉澤 靖之